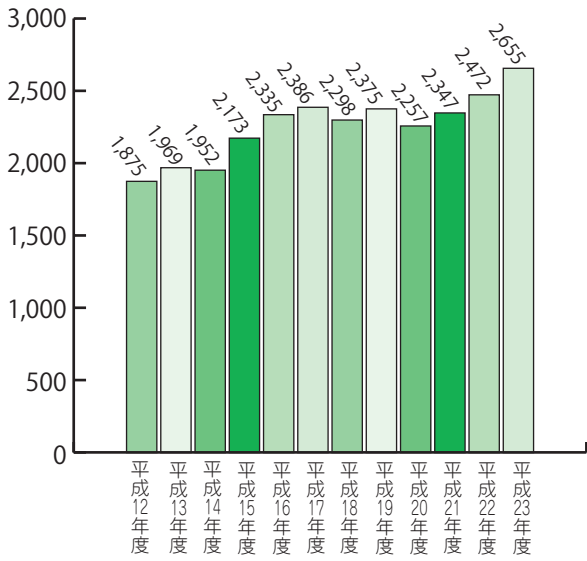


# 救急車を上手に使いましょう

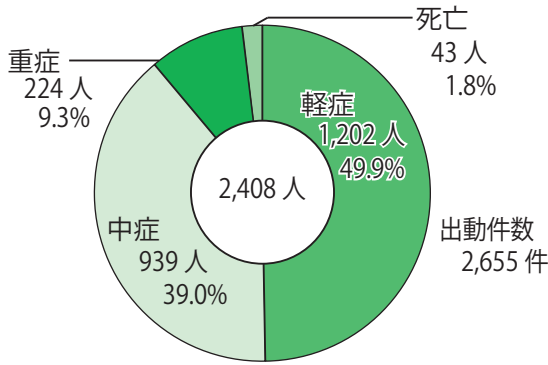
近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。

救急車や救急医療は限りある資源です。皆で上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会をめざしましょう

西入間広域消防組合管内年間救急出動件数 (件)



平成23年度中救急車による傷病程度別搬送人員構成比



西入間広域消防組合消防本部  
TEL 295-0119

## 救急通報のポイント

救急車を呼ぶときの番号は「119番」です。

救える命を救うためには、応急手当が重要です。消防本部から電話で指示されます。救急車は到着するまでにどうしても時間がかかります。いざという時に、大切な人を救うためにも、正しい応急手当を身につけておきましょう。西入間広域消防組合でも、定期的に救命講習を行っています。

応急手当をしている人以外にも人手がある場合は、救急車の来そうなところまで案内に出ると到着が早くなります。

救急車を呼んだら次のような物を用意しておくとう便利です。

・保険証や診察券、お金、靴、普  
段飲んでる薬(おくすり手帳)。

・乳幼児の場合は母子健康手帳、紙おむつ、ほ乳瓶、タオルなど。  
救急車が来たら次のことを伝えてください。

・事故や具合が悪くなった状況  
・救急隊が到着するまでの変化  
・行った応急手当の内容  
・具合の悪い人の情報(持病、かかりつけの病院やクリニック、普段飲んでる薬、医師の指示など)

## 判断に迷ったときには救急相談窓口へ

急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだほうがいいのか、自分で病院を受診すればいいのか、どこの病院に行けばいいのか迷うことがあります。そのようなときには救急相談窓口がありますのでご相談ください。

小児救急医療電話相談事業

TEL #80000

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：大人

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！  
重大な病気やけがの可能性あります。

**顔**

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかける
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

**頭**

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 支えなしで立てないぐらい急にふらつく

**胸や背中**

- 突然の激痛
- 息が急切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く
- 痛み場所が移動する

**手足**

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

**腹**

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：小児(15歳未満)

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！  
重大な病気やけがの可能性あります。

**顔**

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

**胸**

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

**手足**

- 手足が硬直している

**頭**

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない、けいれんがある

**おなか**

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

意識の障害

- 意識がない(返事がない)またはおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 食べ物やのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

意識の障害

- 意識がない(返事がない)またはおかしい(もうろうとしている)

じんましん

- 虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった

生まれて3カ月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

やけど

- 痛みのひどいやけど
- 広範囲のやけど

飲み込み

- 変なものを飲み込んで、意識がない

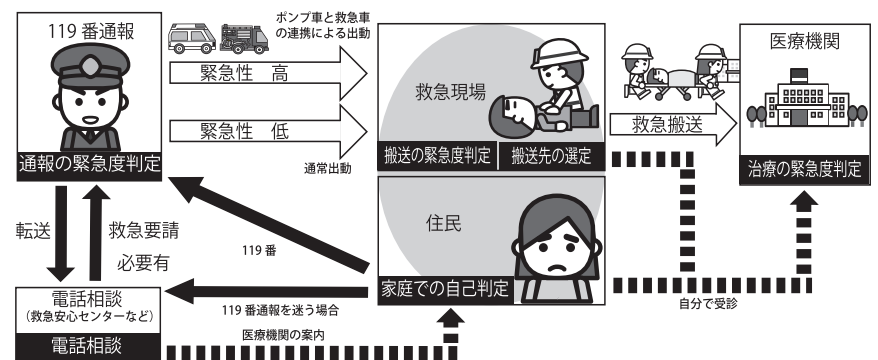
事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「この病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」や「日中は用事がある」「明日は仕事」などの理由で、救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。救急車や救急医療は限りある資源です。いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみましょう。

救急医療の受診について

救える命を救うためには、緊急度に応じた救急医療を提供することが重要です。



資料：「救急車利用マニュアル」総務省消防庁

HP [http://www.fdma.go.jp/html/life/kyuukyusya\\_manual/index.html](http://www.fdma.go.jp/html/life/kyuukyusya_manual/index.html)

救急車で搬送された患者さんの約半数は帰宅可能であったと報告されています。救急車および救急病院の適正利用にご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

病気がけがには、一刻を争う場合があります。このマニュアルに書かれているような症状やけがと判断した場合はためらわずに救急車を呼んでください。また、救急車を呼ぶ必要があるかどうか判断できない場合は、最寄りの消防署や当番病院に問い合わせる指示・助言に従うようにしてください。

消防庁で出されている「救急車利用マニュアル」は一般の人でもわかりやすく書かれており、いざという時に非常に役に立ちます。消防署の窓口でもらえるほか、ホームページでもご覧になることができますので一度お読みいただければと思います。



埼玉医科大学国際医療センター 救命救急科 根本 学 教授